

2026年Jクリテリウムツアー第2戦

JBCF2026 マリモホールディングス広島クリテリウム

日付：2026年3月29日

開催地：広島市西区商工センター特設コース（1周1.7km）

距離：51km

出場：永井（12位）藤井（26位）菅原（69位）鈴木（78位）筒井（80位）大石（DNF）

例年通りであれば7月開催の広島連戦。しかし熱中症多発から安全面を考慮し3月開催となった。20°Cと今日も絶好のコンディションの中レース開催。

コースはヘアピンが3つあるが比較的イーージーなコース。エース永井を最終週の1コーナーにみんなで放り込めるよう各自役割を持ってスタート地点へ。

レースが始まり大きな動きがなく進んでいく。

しかし2周目、他チームの落車を避けられず大石が落車。ニュートラルを使って再度乗車するも大事を取ってDNF。

序盤から筒井が抜け出しには反応、鈴木、永井が前線を張り続ける。

各チームスプリント勝負に持ち込みたい思いが強く逃げと言った逃げは形成されないまま周回数を消化していく。

14周目 スパークル大分、金井選手1人逃げに持ち込むもこれも長くは続かず吸収。

完全にどのチームもスプリント勝負を考えている。

残り5周 スプリント勝負の為、我々も全員が前方に集まり始める。

全チーム同じことを考えているので集団前方は位置取り争いでカオスな状況。

両サイドから隊列を組んで上がり、位置取争いに敗北して下がっていく。を繰り返してあっという間に残り2周。

我々も鈴木、筒井、菅原、藤井が永井のために戦うが、最終的には永井単騎でラストラップへ。

ヴィクトワール広島の牽引の下、一列棒状でゴールまで突き進む。

その状況で中切れが発生し永井が引っかかってしまい勝負は前の6名へ。

永井はその後ろの集団の番手、12位でフィニッシュ。悔しい結果となった。

- 1位 草場選手(キナンレーシング)
- 2位 岡選手(Astemo ブリッツェン)
- 3位 新城選手(キナンレーシング)
- 12位 永井 (チーム最上位)

～監督談～

逃げを一つも許さないが低速で進行する難しいレースであった。

ラスト2周以外は団子状態で進みカオスな展開。

チームとしては決めたことを全員がやっていた。最後こそはぐれてしまったが場数を踏んでいけば良くなっていく。

今まではクリテリウムは逃げで勝負する事が多かったが今年は集団スプリントになったとしても勝負できると感じるレースだった。

～永井談～

まだまだこれから良くなっていくと思う。最後中切れした選手の前で展開したかった。ホームストレートが向かい風なので表彰台に乗れたチャンスがあっただけに悔しい。

しかしチームワークは悪くないので次戦宇都宮でもチャレンジします！

～菅原談～

前には上がれるがキープできない。そのスキルを身に着けたい。来週宇都宮は雨予報だが厳しいサバイバルを生き残ってまわりを驚かせたい。

～鈴木談～

もう少し永井を助けたかった。苦手だと思っていたクリテリウムでこれだけ走れたのは収穫だった。コーナー立ち上がりなどオフロードの技術が生きている。



前半を集団前方で捌く筒井



エース永井の為に引き切った鈴木とそれを引き継ぐ菅原、藤井



最終周、国内トップのスプリンターの後ろを取った永井



レース後すぐに修正案を話し合う選手とスタッフ